

鯖江市社会教育・生涯学習推進合同ワークショップ参加者アンケート集計

(総回答人数 46人)

- Q1. あなたの所属をお聞かせください
- | | |
|-------------|-----|
| ① 社会教育委員 | 14人 |
| ② 公民館職員 | 11人 |
| ③ 民間社員・団体職員 | 4人 |
| ④ 市職員 | 11人 |
| ⑤ 教育委員会職員 | 6人 |
- Q2. 今回のワークショップは、本市の社会教育・生涯学習の推進について考える機会となりましたか
- | | |
|-------------|-----|
| ① 大いになった | 24人 |
| ② ある程度なった | 20人 |
| ③ あまりならなかった | 2人 |
| ④ 全くならなかった | 0人 |
- Q3. 今回のワークショップで得た気づきや、ご自身の活動に活かしていけるヒントはありましたか
- | | |
|-----------|-----|
| ① 大いにあった | 18人 |
| ② ある程度あった | 23人 |
| ③ あまりなかった | 5人 |
| ④ 全くなかった | 0人 |
- Q3. ①②の方は具体的な気づきやヒント、③④の方はそう思われた理由をお書きください。

<①②回答>

- ・自分の考えを共感してもらえた。
- ・巻き込む、支える、見守る(サポート)
- ・他団体から出席されている参加者の方々の自分とは異なる角度からの意見が聞けて参考となった。
- ・実際に社会教育・生涯学習に携わっている方の意見は実務的でためになった。
- ・公民館としてできること、望まれていること。
- ・子ども達が自主的に楽しみたいことを学校以外の地域でもできるといいと感じる。
- ・公民館にも悩みがあり、解決するのも大変なんだと思った。周知を図るのが難しい。
- ・子ども目線の企画は面白いと思う。
- ・それぞれの立場からの取り組みをお聞きして、これまでより広い視野で社会教育全体

を見る契機になった。

- ・創出と廃止の考え
- ・若者を巻き込むところを考えることができた。
- ・結ネットに関心を持った。
- ・教える育てるより子どもや若者に教わる育ててもらい意識が必要。
- ・「高年大学で学んだ人は地域へ還元する」という発表があったが、本当にそのとおりでと思う。自身の学びだけでなく地域でも活躍していただきたい。
- ・いろいろな人の意見が聞けた。
- ・連携の重要さ＝難しさであること 今後必要なこと
- ・ゴミ問題や相談業務などのお話を聞いてとても勉強になった。
- ・若い人達の悩みもたくさんあり、悩み相談窓口があるとたくさんの若い人達が施設を利用すると気づいた。
- ・中高校生が地域イベントに参加するだけでなく、企画する側へを常に考えながら進めていくことが大切だとみんなが思っていることを知ることができ、今後考えないといけないと思った。
- ・巻き込みが大事「How to start a movement」巻き込む側がまず楽しむこと
- ・小中高校生の主体性、大人はサポート役に。
- ・また地域活動ができるよう戻していきたいと思う。
- ・参加された方は各々の立場で社会教育・生涯学習を前向きに捉えている。このような皆様との連携を深める機会が大事。
- ・子どもや高齢者の現状を見ながら継続すること。
- ・公民館の活動はとても頑張っている。その方向性をいつも点検しつつやっていく必要あり。
- ・自己実現を目指している(高年大学)に通っている人にボランティアとして活躍してもらおうというのは新しい視点だと思う。
- ・若者に企画・運営から実践まで全ての活動をまかせることの大切さ
- ・小学校時代に地域の良さを学んでもらう
- ・公民館に期待すること。そして過度に期待しすぎないこと。

<③④回答>

- ・学生(学校)へのアプローチ、広く浅く地域の活動に関わってもらい視点で情報を発信、発信ツールの拡大をしていく。
- ・時間が足りない(グループ内で各自の考えを共有する時間)
- ・メンバーからうまく話しが聞き出せるかがポイントだと思うが、あまり思うような話にならなかったと思う。
- ・時間が限られ、深まりまでには至らなかった。

- ・今までやってきたことが話に出てきたので今考えることが進めること

Q4. 本市における社会教育の担い手の拡大について、あなたのご意見をお聞かせください。

- ・年配の方だけで進めていくと、マンネリ化していく。
- ・小中学校とのつながりを強める(※ボランティア、企画への参加)
- ・公民館のことをよく知らずして地域での行事・事業を避ける人が意外に多い。
なぜそんなに嫌がるのか理解できないが、ネガティブなイメージで捉えられているのだろう。そうしたイメージを取り除くためにも情報発信や関心を引きそうなテーマでの事業など強化していく必要がある。
- ・みんなが互いに担えるといい。
- ・『社会教育』という言葉に捉われず、地域での活動に広く浅く関わってもらう事がポイントと考える。
- ・団塊の世代の退場後、地域をどう維持していくかが問題。定年延長で担い手の供給は途絶えている状態。
- ・地域の企業も巻き込んで事業ができるとうい。
- ・公民館を身近な場所とする。きっかけづくりが必要。声かけも大切。
- ・区長 OB の有効活用。子ども達に対してふるさと教育を実施することでふるさとへの愛着を育て、大人になって地域づくりを担ってもらおう。
- ・小さい子どもに自分が住んでいる地域について興味を持ってもらう。
- ・公民館を核としてまずは第一段階として学校の連携を深めることにより子どもや保護者のつながりを広げていく。それを他の年代層に広げてう取り組みが必要になると思う。
- ・公民館、学校の関係が大きい。
- ・チームや企画士のリーダー育成が大きな課題。
- ・メンバーの交代が必要。
- ・はたちのつどいを利用。
- ・とにかく公民館に人を集める。人が集まれば動きが出る。その中から人を見つける。人探しが重要。
- ・『楽しい』と思えることを広げていくことが一番重要だと感じた。
- ・上の方の意識改革。上から目線はダメ。
- ・若い人が将来担い手となってもらえるように、はたちのつどい時に SNS 登録をしてもらい、発信をしていく。地元を忘れず、いつか戻ってきてもらえるように。
- ・子どもの時から地域の行事に楽しく企画に関わって参加することが未来の地域づくりに関わる担い手につながる。そのための種まきが大人の役割だと思う。

第2回 鯖江市社会教育・生涯学習推進計画策定委員会

- ・広く人材を集め、得意な分野を伸ばしてほしい。
- ・つながる→広げる→関わり続ける
- ・子どもの時から地域への参加がとても大切だと思う。子どもの時から地域活動へ参加している子は、成長した後も地域への垣根が低いと思う。
- ・何か活動を始めることが大事。新しいことをやるには止める勇気も必要。
- ・はたちのつどいに参加している人達を核にして若い人達の輪を広げるとよいと思う。
- ・地区単位も大事だけど、まずは町内単位でも小中高校若者を中心とした町内行事を進めていく体制作りをすることも大事だと思う。町内でもできないことをいきなり地域に出てきてというのも無理があるような気がする。
- ・子どもの「want to」を叶える。楽しかった！嬉しかったという感情を残すことが大事。
- ・公民館だけでなく、町内会単位でも担い手の育成は図られる。
- ・区長と区長 OB の皆さんが主体的に担い手となる。
- ・公民館に関わる機会を増やすこと 若手のうちから関わること
- ・行事一覧表作成で皆に知らせる
- ・若い人はとても大切だとは思いますが、即戦力としては中高年もとても大切に思う。40～60代前半の方にも地域に社会教育に教育してもらおう工夫も必要ではないか。
- ・仕事も退職して時間のある人はたくさんいると思う。気軽に楽して参加できる、地域デビューできる場と作るとよい。
- ・巻き込みが必要。各世代毎に役割を与えることで自発的に担い手も拡大していくのでは？
- ・まちづくりは楽しく！
- ・高齢化しているが、子どもの頃から公民館の事業に参加してもらい、自分達で企画、実施してもらえるように(将来)なっていきたい。
- ・子どもたち(親も)をまきこむ。学校の協力も必要。
- ・公民館での楽しい体験がゆくゆくは担い手の育成につながっていくと思う。
- ・公民館だけでなく市長部局を含めた関係団体が積極的に発信を行い、きっかけづくりにすることが大切
- ・古い慣習にこだわるのではなく、若手(子ども)の意見に耳を傾け若い人も参加できる環境をつくる必要がある。
- ・年代別に関心が高いことをアンケート調査して需要にあったイベント等を企画する。できれば複数の世代の需要があるイベントを企画し世代間交流を図る。
- ・一人でもいいから(すくなくてもいいから)スタートする。
- ・需要に合ったつどいつながる機会づくり
- ・若い世代からの教育の中で植え付けていく

Q5. 本市における青年層への社会教育のアプローチについて、あなたのご意見をお聞かせください。

- きっかけが大事。はたちのつどい、22～25才の U ターン者、地域おこし協力隊の方との協力など。
- Q4 の続きで、小中学校の PTA と連携して若い世代が集える事業を企画してもらえたら。
- 幼少期から地区イベントに親しむ経験を重ねていくことで公民館は「敷居が高い」「入っていきにくい」といった一面を少しでも減らしていく。知ってみれば公民館に居場所を見つけることができるのではないかな？
- リーダーのファシリテート力をつけよう。
- 年齢層毎にアプローチする事に特化したプロジェクト等で常えず追求することが大切と考える。
- 高校、大学との連携事業を深め、参加したら単位がもらえる等して参加しやすい場を設ける。
- 大学との連携→教授との共同研究、学生の参加
- 家庭で不要になったもの(例:ベビー服や学生の参考書・テキスト)を公民館に置くことでふらっと立ち寄れる場所になるとよい。
- 若い人の出番づくり、居場所づくりが大切。若い人に任せる。自由度を増やす。来やすさ。
- 中河公民館が実施した「バル」はおもしろい取り組みだと思う。
- Q4 と同じく子どもの保護者が青年層にもつながると思うので、それをきっかけに広げていく方法を考えていきたいと思う。
- JK 課のような組織作りがほしいと思う。
- 子どもの主体性を活かしていく。
- まかせる、委ねることが重要→賢い年寄りになる(啓発)
- 子どもたちの主体性を大人がバックアップする体制を作っていく必要があると感じた。
- 学校にいけない子ども達がふらっと立寄ることができる場所でもあってほしい。
- 青年層で企画してもらったイベントを実施する若い人は友達を呼ぶので拡大していくのではないかなと思う。
- 子育て世代の参加を促す。
- アウトリーチ(工夫をこらす) 1度ダメだからといって諦めない 改善し続ければ届く
- 外部も含めて同年代の方達との交流があれば青年層の方達も地域へ参加しやすいと思う。
- 参加しやすいテーマを考える。スクラップ&ビルドが大事。
- いろいろな活動の場が地域にもあることを伝えていくことが大切。
- 地区単位も大事だけど、まずは町内単位でも小中高校若者を中心とした町内行事を

第2回 鯖江市社会教育・生涯学習推進計画策定委員会

進めていく体制作りをすることも大事だと思う。町内でもできないことをいきなり地域に出てきてというのも無理があるような気がする。

- ・「want to」を叶える。楽しかった！嬉しかったという感情を残すことが大事。
(Q4と同様、大人も同じ)
- ・はたちのつどいを1つのきっかけとし、うまく生かせるといい。
- ・ICTリテラシーアップ(公民館)
- ・興味をそそる知らせ方を。ポイントしぼる。
- ・今行っている小学生の事業は引き続き行っていくべき。
- ・子どものうちからの公民館イベントに楽しく参加できる経験をもち、地域への愛着を！
- ・地域への参加が消極的な世代でもあるが、社会活動に参加するきっかけを作ること
で社会教育は大きく変わる。
- ・25才の子ども案、JL活動の場提供。
- ・学校と連携して公民館の事業に携わってもらっている(パソコン口座、文化祭、合宿通学など)。参加された方かたも好評を得ている。
- ・幼児→小学生→中高生→はたちのつどい 小さい時から社会でのつながりを感じさせる
- ・中高生が小さい子相手に楽しいイベント(行事)をすることも大事。
- ・とにかくまずもって活動に参加していく意欲を育てていくこと
- ・時代にあった社会教育(生涯学習)の推進
- ・地域のイベントの一部を担ってもらう。企画からまかせる。
- ・町内会からの人間関係の作り直しがいいと思う。
- ・現在もやっているが、ターゲット層のアイデアを尊重する。
- ・難しいと思う。

Q6. 今回のワークショップを、ご自身の活動に活かしていきたいと思いませんか。

- ① 大いに思う 18人
- ② ある程度思う 24人
- ③ あまり思わない 1人
- ④ 現時点ではわからない 2人

Q7. 全体を通してお気づきの点やご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

- ・楽しい意見交換会だった。今後の活動の参考にする。
- ・現実的には生涯学習課及び公民館両職員の動きが大切であると考え。能力アップを図ってほしい。
- ・今回のワークショップで実務的な意見を聴けたのがためになった。

第2回 鯖江市社会教育・生涯学習推進計画策定委員会

- ・企業の代表など幅広い層の方々とのこのようなワークショップも有意義ではないかと思う。
- ・今回のテーマについて話し合う中、公民館に来るきっかけづくり、広報が大切であると感じた。
- ・様々な意見が聞けて良かった。
- ・我々が楽しく活動している姿が大切。
- ・当然ことだが、色々な人の考えが聞けてよかった。
- ・若者の参画のためには、子どもの頃から巻き込んでいくことが必要だと思う。
- ・少しずつ巻き込む企画を考えていきたい。
- ・楽しくないと長続きしないと思う。
- ・いろいろな方との交流ができてとても刺激になった。
- ・貴重な時間をありがとうございました。
- ・みなさんのちょっとしたご意見はとてもいいヒントになった。こういう場にもっと公民館職員が入っているとよかった。
- ・話し合いの時にホワイトボード的に使える紙があると情報をまとめやすい。認識が合わせやすくなり短時間作業の制度を上げられる。
- ・立場毎の考え、思いが出ているものをうまく行政、民間、市役所、公民館がつながっていき、鯖江市らしい社会教育、生涯学習の推進につながると思う。
- ・社会教育は地域を豊かにすることを目指すもの。これを念頭に。まだまだの感。
- ・自分自身の考えがはっきり見えてきた点で感謝。また知り合いの方の多才さも分かり、今後のつながりが楽しみ。
- ・普段の業務と違った分野の方とのワークショップは良かった。
- ・前向きな考え方を取込み、取り入れて参加する喜びを感じられる社会になるといい鯖江市、住みよい鯖江市になると考える。
- ・多方面の方々のご意見が聞かれて、よい機会となりありがとうございました。
- ・現状や施策の共通認識ができたうえで話し合いができたので、わずか一步だが未来が明るく感じた。
- ・いろいろな人を巻き込むことが大事。その中心に公民館がなるとよい。
- ・公民館が生涯学習のプラットフォームとなって活動していくこと。しかし過重労働にならないことが最も大切。
- ・社会教育、生涯学習の推進の難しさをあらためて感じた。
- ・現実的には難しい。個だけで生活できるような社会になってしまっていて、コロナが拍車をかけてしまった。

鯖江市社会教育・生涯学習推進合同ワークショップ 参加者アンケート

本日は、鯖江市社会教育・生涯学習合同ワークショップ（社会教育交流会）～「市民力」と「地域力」で目指そう！ウェルビーイング社会～にご参加いただき、誠にありがとうございました。今後の社会教育・生涯学習の推進の参考とさせていただきますので、下記のアンケートにご協力ください。（当てはまるところに○印をお付けください）

Q1 あなたの所属をお聞かせください

①社会教育委員 ②公民館職員 ③民間社員・団体職員 ④市職員 ⑤教育委員会職員

Q2 今回のワークショップは、本市の社会教育・生涯学習の推進について考える機会となりましたか

①大いになった ②ある程度なった ③あまりならなかった ④全くなかった

Q3 今回のワークショップで得た気づきや、ご自身の活動に活かしていけるヒントはありましたか

①大いにあった ②ある程度あった ③あまりなかった ④全くなかった

（①②の方は具体的な気づきやヒント、③④の方はそう思われた理由をお書きください）

⇒

Q4 本市における社会教育の担い手の拡大について、あなたのご意見をお聞かせください

（担い手の拡大について）⇒

Q5 本市における青年層への社会教育のアプローチについて、あなたのご意見をお聞かせください

（青年層へのアプローチについて）⇒

Q6 今回のワークショップを、ご自身の活動に活かしていきたいと思いませんか

①大いに思う ②ある程度思う ③あまり思わない ④現時点ではわからない

Q7 全体を通してお気づきの点やご意見等がございましたら、ご自由にお書きください

⇒

ご協力ありがとうございました